



日本キリスト教団
三軒茶屋教会
<http://www.sanchurch.jp>

三軒茶屋 教会通り

〒154-0024
 東京都世田谷区三軒茶屋 1-31-5
 TEL/FAX: 03-3418-4933
 発行: 三軒茶屋教会 広報部

第34号 2008年12月発行

米国に黒人初の大統領が誕生し、

画期的な出来事に熱い報道がなされました。メディアは四〇年前に凶弾に倒れたM・L・キング牧師の映像を引用し、あのワシントン大行進の日におこった有名な「私には夢がある」という演説が、いま実現したと伝えていきます。また、オバマ氏の受諾演説を聴きながら会場で涙している黒人運動の指導者ジェシー・ジャクソン牧師の顔が、何度も写し出されました。

私は一九七五年、アトランタに三か月滞在したことがあり、キング牧師の牧会していたエベネザール・バプテスト教会の礼拝に一度出席しました。その日の説教者はキング牧師なきあとの後継者・ジャクソン牧師だったのです。ゴスペル・クワイアが盛り上げる礼拝は印象深いものでした。教会の隣りに当時、キング牧師の墓があり、黒人霊歌の一節「ついに自由だ。ついに自由だ。全能の神に感謝します。われらはついに自由になった」が刻んであり

自由への大いなる歩み

牧師 陣内厚生

ました。

その後、感謝祭の休暇を利用して神学校の教授と共に隣りのアラバマ州バーミングハムへ旅をしました。そこには焼き打ちにあった黒人教会（少女四人が爆死。ライス国務長官の少女時代属した教会、親友が死亡）があり、また奴隷売買の市場跡が町の中にあり、大きなショックを受けたことを思い起こします。

私はアトランタに出かける前、キ

な不安の夜中に折ったのです。



「この瞬間、ぼくは神のみ前にあることを感じた。こうした経験は、未だかつて決してなかったことだ。あたかも『正義のために立て。真理のために立て。しからは神は永遠に汝の傍にいますである』という内なる声のしずかな約束を聞くことができたように思われた。と同時に、ぼくの恐怖は消えはじめた。ぼくの不安は消え、ぼくは何ものであろうとこれに立ち向かう覚悟をきめた」と。

この折りを読むとき、キング牧師の思想行動の背景には、信仰の問題があることが解ります。

キング牧師の著書『自由への大いなる歩み』（岩波新書）を読み、大いに感銘を受けていたのです。実際にかの地を訪れてみて、その関心はますます深まり具体化していきました。彼はモントゴメリーの町で、バス・ボイコット運動を指導せざるを得なくなり、自宅に爆弾を投げ込まれるなど、これは命がけの戦いになることを迫られました。その苦悩が著書の中ににじみ出ています。彼は深刻

かくして、非暴力抵抗という形の、人間の尊厳を勝ちとる歴史的な公民権獲得運動が戦われました。あれから四〇年余。全世界は、キング牧師が一命を賭して貴い理念をもたらしたことを忘れないでしょう。まさにこれはプロテスタント信仰の、現代的発露でした。『地には平和、み心に適う人にあれ』（ルカ2・14）。